「子産恵の宮神社」由来

霧島市横川町下ノ赤水に岩堂観音（昭和57年県指定文化財）と呼ばれている磨崖仏があります。建武二年という刻銘があり、昔から近在の人々に崇められていました。ここよりおよそ2百メートル下ったところに「子産恵の宮神社」という岩窟があって、次のような話が伝えられています。

昔々、岩堂観音様に熱心に通ってくる夫婦がいました。夫婦は、子どもに恵まれないので、「どうか子どもをお授けください」とお願いしているのでした。ある晩のこと、夫婦にその観音様からのお告げがありました。

「この山奥まで足を運ぶとは感心なことである。その望みをかなえてやろう。この下にある岩窟の神様を訪ねるがよい」と。

夫婦は早速そこを訪ねることにしました。しかし、岩堂観音様まで来るのも大変なのに、その下となると、見えるのは雑木林と巨岩。どのあたりにあるのか方角も分かりません。夫婦は三日三晩捜し歩いて、ようやく大きな岩窟におられる神様に会うことができました。夫婦の願いを聞いた神様は、「では、このアマカズラ（植物 別名アマチャヅル）で作った甘酒を飲むとよい」と竹筒をくださいました。

夫婦が、その甘酒を飲んだところ、妻は身ごもり、やがて、月満ちて元気な赤ん坊が生まれました。大喜びで、大事に育てようとしたのですが、母乳がすぐとまってしまいました。困り果てた2人は再びあの岩窟を訪ねました。2人の話を聞いた神様は、また、甘酒のはいった竹筒をくださいました。それを飲むと、母乳が豊かに出るようになり、子どもはすくすくと育っていきました。

それからしばらくして、夫婦がその岩窟へ行ったところ、神様の姿は見えず、「子どものほしい人はここの水を飲むとよい」と書かれたものがあるだけでした。2人はお礼として3つの自然石を立てて神様を祭りました。

それはいつしか、子恵みの神、お産の神、お乳の神と言われるようになり、広い岩窟の中では、今でも岩壁に沿って流れるせせらぎの音がひそやかに聞こえてきます。

（原話『横川町郷土誌』）

文／有馬英子絵／二石綱夫